

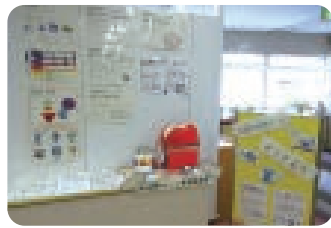
NIC あれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

困ったことがあったら 多文化共生総合相談ワンストップセンター ～NIC情報サービスコーナーへ！～

「名古屋市内で日本語を勉強できる場所を知りたい」、「中国語で対応してくれる産婦人科を教えてください」、「海外にいる家族を呼び寄せるにはどうしたらいいか」、「ボランティアがしたい」など、情報サービスコーナーには、日々、さまざまな問い合わせが寄せられ、9言語(日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語)で応じています。また、外国人住民が増加し、複雑化する相談に対応できるよう、NICでは行政相談、海外児童生徒教育相談、法律相談なども行っています。

来館者には、生活にかかる基本情報や各種手続きを掲載した冊子「名古屋生活ガイド」を同封した「外国人転入者向けウェルカムキット」や、多言語の観光パンフレットも配布しています。防災コー



▲防災コーナーで、避難情報や非常持ち出し袋などについて掲示しています。

ナーでは、災害への備えや災害時の行動などをやさしい日本語でわかりやすく伝えています。

「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置の一部を改正する法律」が4月に施行され、政府は都道府県と政令指定都市はじめ外国人が多数居住する市区町に交付金を出し、「多文化共生総合相談ワンストップセンター」の設置をすすめています。これは、外国人に対し、生活に関わる情報提供及び相談を行う一元的な窓口のことです。情報サービスコーナーも、名古屋市のワンストップセンターとしての役割を担っています。

NICでは、以前より多言語で情報提供・相談を行っていますが、関係機関や専門機関ともこれまで以上に連携を深め、ワンストップセンターとしての機能を充実させていきたいと考えています。困っている外国人の方にぜひNIC情報サービスコーナーをご案内ください。



▲情報サービスコーナーの入口にデジタルサイネージを設置し、多言語でNIC事業を案内しています。

NIC情報サービスコーナー(3階) 問 広報情報課 ☎052-581-0100 ✉info@nic-nagoya.or.jp

ぶらり ライブラリー

特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに出来る場所。このコーナーではNICライブラリーと、ライブラリーの本をご紹介します。NICライブラリー 名古屋国際センタービル 3階 9:00～19:00 月曜休館

聞きたい声、聞きたくない声

ネット環境やAI(人工知能)の進化で、自分の聞きたい声だけに耳を傾けることが容易になりました。自分で積極的に異なる考え方を知らずとしないと、偏った情報をもとに様々な重要な判断をしてしまうことにもなりかねません。

今回紹介するのは、読んでいるうちにまるで自分がディベート会場で討論していると錯覚しそうな小説「ある晴れた夏の朝」です。出自が異なり継承する文化も価値観も多様な8人のアメリカ人高校生が、皆に戦争と平和についてもっと考えてほしいという共通の思いでつながり、原爆投下の是非を問うディベートを企画、実施したことを核とした物語です。

「戦争と人種差別は切り離すことができない」、「国民を一つにまとめ、戦意を盛り上げるために、人種差別ほど都合のいい材料はない」、「差別は偏見とも言い換えることができる」など、ディベートの中にたくさんのキーワードが出てきて、何が人々を戦争に駆り立て、非人間的な行為の是認

へと導くのか考えさせられます。

この小説は、1つの事を深く掘り下げるとことん考えることの大切さと、自分が見ているのはその一部であって全体ではないかもしれないという謙虚さを持つ、今まで見ていなかったことが見えてくることを教えてくれます。ディベートは勝敗ではなく過程こそ意味があり、異なる考え方や価値観に触れることで人は成長します。そしてそれを許すことのできる社会は、誰もが臆することなく自分の意見を持ちながら、異なる意見にも耳を傾けられる、成熟した社会になるのだと感じました。



「ある晴れた夏の朝」著:小手鞠るい 偕成社刊

クイズ Q. 第二次世界大戦中に日系アメリカ人のみで編成されたアメリカ部隊はなんと呼ばれたか。

図書館雑誌「わがまち」

NIC レポート

8月は名古屋市の「多文化共生推進月間」でした。この時期にNICで行われた3つのイベントについてレポートします。

8/10(土)

「まるかる」な街ってどんな街？ NIC「まるかるタウン」ナビ

150か国以上、8万人を超える外国人が暮らすマルチカルチャー(まるかる)な街、名古屋。今回は、NIC地球市民教室(*)の講師として活躍中の3名のゲストをお招きし、母国の文化や日本での暮らしについてお話を伺いました。

●第1部 まるかる・ザ・ワールド！～外国のお話を聞こう～

タバ カピタさん(ネパール出身)、テリー レマさん(タンザニア出身)、マカム ロン ハーさん(ベトナム出身)の3名が、それぞれの母国の文化や暮らしについて紹介しました。各国のユニークなお話、参加者は熱心に耳を傾けました。

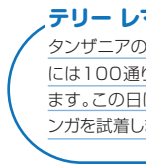
●第2部 もっと「まるかるタウン」なごや ～外国人講師とお話しよう～

参加者がグループに分かれ、講師を囲んで座談会。参加者から矢継ぎ早に繰り出される質問に対し、教育や医療、仕事など日本での暮らしの中で感じていることについて、講師の思いを聞くことができました。名古屋に暮らす外国人の生の声を聞くことで、多文化共生のために自分ができることを考えるきっかけとなりました。

*NIC地球市民教室については、裏表紙に体験イベントの報告があります。あわせてご覧ください。



タバ カピタさん
ネパールの面積は、北海道の約1.8倍。この中に、独自の文化を持つ126もの民族が暮らしているんですよ。



テリー レマさん
タンザニアの伝統的な衣装、カンガには100通りを超える着方があります。この日は、実際に参加者もカンガを試着しました。



マカム ロン ハーさん
Q.ベトナムでは、バイクのことを何と呼ぶでしょう？
A.答えは、ホンダ。日本製のバイクはベトナムで大人気です。



8/17(土)・18(日)

世界の楽しい絵本がいっぱい！ 絵本のひろば～NICライブラリー子どもまつり～

2日間で481人の親子が参加してくれました。8か国の外国人スタッフに絵本を読んでもらったり、各国の遊びを教してもらい、笑顔あふれるイベントになりました。



▲ニジェールの遊びをみんなで一緒に



▲絵本の読み聞かせ



▲「やさしい日本語」すごろく



▲ネパールの手遊び

8/24(土)

食を通して多文化共生について考えました！ 「世界のいただきます」をつくってみよう！



名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市提携60周年を記念し、カリフォルニアロールを作りました。それぞれに好みの食材を選び、世界の巻きずしをヒントにオリジナル巻きずしを作り、試食しました。味噌だれを使った「名古屋ロール」、エビ天をしゃちほこに見立てた「しゃちほこロール」、貝たぐさんの「とくもりロール」「満タンロール」など、ネーミングもユニークで、個性豊かな巻きずしができあがりしました。子どもたちは「おいしい！」と大満足の様子でした。

参加者は、日本の巻きずしがアメリカに渡り、現地の文化と融合し親しまれていることを知り、多様な文化を受け入れることで、新たなものが生まれることのすばらしさを頭と舌で学びました。



へえ！のりご飯をひっくり返して巻くんだね！



うまく巻けるかな？



こんな巻きずしができたよ！



いただきます！